

《京都》御所と離宮の栞 ～其の二十六～

桂離宮のあられこぼしと延段 のぺだん

桂離宮は、建物と庭園が見事に調和し、美しい景観を織りなす日本の名庭園の一つです。そんな桂離宮の美しさは足元にも及び、苑路には、自然石や切石が敷き並べられた光景が多く見られます。今号では、庭園の重要な役割を担う石敷きの道「あられこぼし」や「延段」についてご紹介します。

◆ あられこぼし

桂離宮の北東にある御幸門(栞其の一)から古書院の中門の間には、道幅の中央に膨らみのある柔らかな印象の小石を敷いた苑路があります。

この苑路の小石敷きは、まるであられをまき散らしたかのような風情に小石を敷き並べることから「あられこぼし」と呼ばれています。『桂御別業之記』という資料によると、後水尾上皇の桂離宮御幸に際し、「御幸道」において雨の後に供奉の人々の草鞋が泥土に染まることを防ぐために小石が敷かれたようです。今のあられこぼしを見ると、道幅の中央を膨らませて水たまりを防ぎ、更には基礎部分に砂利を敷いて水はけを良くするなどの工夫がなされていることが分かります。

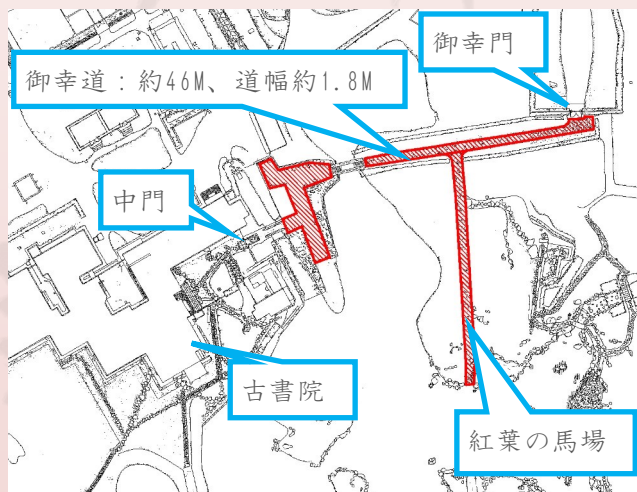
あられこぼしに使用されている小石は、地元桂川水系から採取されたチャートと呼ばれる堆積岩で加工せずそのまま使用されています。長さは、約7cm前後で、石の上面が平滑で縦長の形状をしているものが選別されています。その量

は、苑路の約1㎡あたり450～500個ほど使われ、あられこぼし苑路全体の約283㎡で、約13万個にもおよぶ小石が使用されています。

最近では、平成29年度に約4ヶ月をかけ、参観順路の最初の土橋付近の区域や通称「紅葉の馬場」といわれる区域を修繕しました。



あられこぼし(御幸門付近から見る)



あられこぼし位置図(赤色箇所)



あられこぼし(中門付近)

次に、あられこぼしの構造について、桂離宮の参観者休所で展示している模型(写真:①)と、その制作風景を見ながらご紹介します。

あられこぼしに使用する材料は、小石の他に砂利と赤土しっくいのみで、漆喰やモルタルなどの石を固定する材料は使用しません。始めに排水を効率的に行うために砂利を敷き、その上に土台となる赤土を被せ、赤土の中に小石を縦方向に打ち込みます(写真:②、③)。縦方向に打ち込むことで、より外れにくくなります。

打ち込む際には、目地の模様いが忌み目地(見た目や外れやすさから避けるべきとされる、十文字や直線などを呈する目地)とならないように注意しながら小石を一つ一つパズルのように組み合わせ選定し、隣り合う石の側面や角をしっかりとかみ合わせて打ち込みます。打ち込みは、庭園技術を有する職人でも一日当たり20〜30cm角しか施工でき

ず、とても難しい作業となります。

打ち込みを終えたら、できるだけ小石の高さを揃えるため、板を当てて叩き、微少な高さの調整を行います。(写真:④)。

最後に、目地に土を入れ込んで水を撒き、できるだけ隙間を埋めます。こうすることで更に強固に仕上がります。

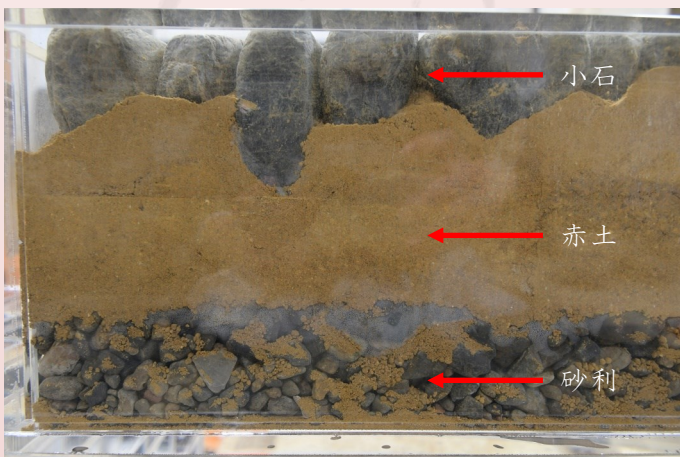
以上のように小石を敷き並べて打ち込むというシンプルな施工方法ですが、漆喰などを使用せずに苑路として仕上げるためには、職人の技術力や経験、知識が必要となります。



① あられこぼし模型



③ 石の打ち込み



② あられこぼし断面



④ 高さの調整